

課題対応取組み報告書

名称	生野区田島地域総合相談窓口					
提出日	令和6	年	6	月	22	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
活動テーマ	お困りごとの早期発見・相談に繋げるための相談窓口の周知活動				
地域ケア会議から 見えてきた課題	支援開始時点で世帯の状況が悪化しており複雑化した問題を抱えるケースが増加している。特に、家族や地域との繋がりがなく、孤立化している方においては、不適切な環境で生活をされている等問題が重度化してからの支援介入となることが多い。 また、地域住民同士の関係が希薄化してきており、近隣住民同士で挨拶以上には干渉しづらいという声や、地域関係者からは近隣住民が入院・施設入所等で不在になっても分からずに困るという声も聞かれる。				
対象	当総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)圏域に居住の高齢者とその家族、地域関係者等				
地域特性	・当ランチ圏域における高齢者人口は、3,785人、高齢化率は約32%。 ・圏域内には鉄道の駅がないが、中心にバス通りである今里筋が南北に通っている。昔ながらの長屋も多く銭湯に通われている方が多い。自転車で移動される方が多数だが、自転車をやめると長年通っていた趣味や社交の場に行けなくなる方も多い。 ・地域活動の担い手の高齢化が顕著で、次の担い手が見つからず負担が大きいという声も聞かれる。				
活動目標	・地域住民とランチの顔の見える関係づくりの促進 ・地域住民へのランチの活動理解促進				
活動内容 (具体的な取組み)	・認知症サポーター養成講座開催への協力を行い、相談窓口の周知を行う。 (7月3日生野南会館にて実施・13名参加) ・市営住宅にてまちかど相談会を異地域包括支援センター(以下「包括」という)と共催し、相談窓口の周知を行う。 (9月22日「体力測定・血管年齢測定」実施・12名参加) (11月14日「認知症気づき講座」実施・14名参加) ・田島連合の防災訓練の開催に協力し、内容のうち1ブースの運営を担当することで、地域住民との交流を行う。 (10月14日「福祉避難所への要援護者の車いす移送体験」コーナーの実施) ・民生委員会議へ異包括とともに参加を行い、圏域の課題について情報共有を図り、顔の見える関係づくりを行う。 (2月26日田島民生委員会議へ参加) (2月27日生野南民生委員会議へ参加) ・ランチの周知チラシの内容工夫と積極的活用を行う。(季節ごとに作成し、令和5年度約400枚配布)				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域関係者からの継続的な相談に繋がっている。(令和5年度の地域関係者からの相談実人数25名) ・これまでに関わりのなかった地域関係者にもランチの役割を認識してもらい相談に繋がった方もあり、住民・地域関係者との顔の見える関係づくりを促進することができた。(地域関係者からの相談実人数の昨年度比：9名増) ・各企画の実施、地域行事への協力において、包括やランチ職員の顔や活動を知っていただくことができた。				
今後の課題	地域との連携を強化していくことで、お困りごとを抱える方への地域での小さな気づきを早期に相談いただけるよう、周知・関係を継続していく必要がある。 また、相談窓口として、地域等と関わりを持っておらず、引きこもりがちになっている方とどのように関わりをもっていくのかは継続的な課題である。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月19日(金)				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性				
評価できる項目(特性) についてのコメント	総合相談窓口(ランチ)の啓発リーフレットは、イラストを活用しわかりやすい内容となるよう工夫されている。 リーフレットは地域へ出向いた際に配布するなど、積極的に活用されており、地域住民や地域役員からの相談の増加につながっている。地域の関係者と関係づくりも丁寧に行われている。				
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。					

課題対応取組み報告書

名称	生野区新生野地域総合相談窓口					
提出日	令和6	年	6	月	26	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等			
活動テーマ	相談内容件数が多い認知症への取り組み ①総合相談窓口(ブランチ)の周知活動 ②地域にお住まいの方に対する、認知症予防についての啓発				
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし認知症高齢者(認知症状に対する)への周辺住民の理解不足 ⇒地域の方より、支援が必要そうな認知症の人やその疑いがある方に対し、どのような声掛けや対応をしたらいいかわからないといった声が多く見受けられたため、地域役員含む周辺住民への啓発が必要。				
対象	地域在住高齢者及び住民・地域振興会・民生委員・女性部長				
地域特性	文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、町並みが変化してきている。若い世代の流入による、児童が増加傾向にある。 マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域の見守りや情報提供が難しくなっている。				
活動目標	高齢者から子どもに至るまで、全ての世代への「認知症」啓発				
活動内容 (具体的取組み)	・総合相談窓口(ブランチ)(以下「ブランチ」という)啓発チラシのポスティング・異東地域の各町会に啓発ポスター掲載 ・地域行事への参加 (にこにこ教室・はーとちゃん教室・ノルディックウォーキングの会・異東敬老の集い) ⇒ブランチの啓発、認知症についての説明やその予防、虐待・詐欺対策などの情報提供を実施 ・異東連合・異地域包括支援センター (以下「包括」という)との連携強化 ・子育てサロンに参加されている親世代に向けたブランチや認知症についてのチラシ配布 ・異東地域福祉コーディネーターと協働し、いくみんお守りキーホルダーの周知・登録 ・地域行事参加者宅への複数回の戸別訪問 ・町会未加入のマンションなどへの認知症予防及び総合相談窓口啓発 ⇒ブランチ啓発ポスターや詐欺防止のチラシ等をポスティングし、相談窓口情報を発信				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・相談件数：前年度比105% ・異包括との関わり件数：前年対比102% ・子育てサロン参加者に対し、認知症やブランチに関する情報提供を行い、子育て世代の方にも認知症の人の対応や、その相談窓口を周知する機会ができた。 ・異東会館での滞在時間を平均2時間/日 捻出することにより、会館に来館された方にブランチの周知活動を行うことができ、来館された方にブランチを身近に感じていただけるようになった。 ・百歳体操及び地域行事の新規参加者の増加。(4名) ・家族介護教室：6/23実施 異東高齢者及び異東住民 12名参加 12/6実施 異東高齢者及び異東住民 9名参加				
今後の課題	・認知症への理解を深め早期発見、早期対応や地域で見守れるまちづくり ・若年世帯(別居世帯)への認知症早期発見、相談窓口の情報提供 ・新型コロナウイルス感染症第5類引き下げに伴い、活動が再開されていない地域行事の再開目途及び準備物の確認				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月19日(金)				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性				
評価できる項目(特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	子育て世代に対し、認知症への理解を深められるよう取り組みを行っている。 地域行事や事業を通して地域住民と顔の見える関係づくりに努めている。 認知症高齢者の増加に伴い、認知症で行方不明になる心配のある高齢者への対応が課題となっており、いくみんお守りキーホルダーは良いツールの一つである。				

課題対応取組み報告書

名称	生野区新異地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	26 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他（複合的な課題を持つ家族支援）	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域の実態把握と総合相談窓口（ランチ）の周知活動 高齢者の孤立化の予防	
地域ケア会議から 見えてきた課題	町会に未加入で心身の状態が悪化し、問題が進行してからしかつながらないケースが増えている。 認知症が進行して、地域から孤立している高齢者が増加傾向にある。	
対象	圏域内の高齢者またその家族・地域住民・民生委員・地域役員	
地域特性	平野区と隣接する生野区最南端の地域。マンションや戸建てが増え、若い方の定住が増えている。ワンルームマンションも増え、町会に加入しないマンションに高齢者が他地域から転居されてくるケースがあり、顔の見える関係性が薄くなっている。 地下鉄やバスは通っているが、バスは1時間に1本しか走っておらず、区役所に行くにも乗り換えなければならない。 オンデマンドバスは高齢者にはスマホでの予約の困難さがある。	
活動目標	・地域住民、各関係機関との連携を重視し、地域包括支援センター（以下「包括」という）・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動を行い、気軽に相談先として認識していただく。 ・地域住民に地域交流スペース「いらカフェ」を利用していただき、接点を作っていく。	
活動内容 (具体的取組み)	・民生委員、生野区社会福祉協議会（見守り相談室）、包括と高齢者世帯に、熱中症予防の戸別訪問を行い実態把握とランチの周知活動。 ・地域行事（お花見サロン、朝市、クリスマスサロン、サンタ大作戦等）に企画から参加する。 ・地域活動（百歳体操、高齢者食事サービス、いきいき教室等）に参加して地域の実態把握行う。 ・地域交流スペース「いらカフェ」の開放。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・民生委員、生野区社会福祉協議会（見守り相談室）、包括と高齢者世帯に戸別訪問を行ったことで、地域の実態把握ができ相談にもつながっている。 ・地域行事（お花見サロン、朝市、クリスマスサロン、サンタ大作戦等）に企画から参加することで、地域役員と関係を深められ「顔の見える関係」を築きつつあり、近所の方から「気になる高齢者がいる」と情報を得ることもできた。 ・コロナ感染症の5類移行後、徐々に地域交流スペース「いらカフェ」を利用される高齢者が戻ってきている状況であり、交流の場として定着し始めている。	
今後の課題	・町会に未加入の方や、地域行事等に参加されていない方がまだまだおられるため、包括・ランチの周知活動を継続して行う。 ・地域交流スペース「いらカフェ」の利用者も新型コロナウイルス感染症で減少気味であるため、世代問わず利用していただけることを改めて周知していく。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月19日（金）				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性	☒ 継続性	☒ 浸透性	☒ 専門性	☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント	多世代にわたる相談の場を提供し、高齢者の含む世帯全体に対する支援を行っている。 積極的に地域役員との関係構築を図り、地域からも直接相談が入る体制が作られており認知度が高いことが伺える。 今後も、高齢者だけでなく、様々な世代を巻き込みながら、地域活動に参画いただきたい。				
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。					

課題対応取組み報告書

名称	阿倍野区昭和地域総合相談窓口
提出日	令和6 年 6 月 24 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	認知症の人や地域の方など、誰もが気軽に参加できる「集いの場」の構築を目指して	
地域ケア会議から 見えてきた課題	○潜在的なニーズのある方や、ニーズはあるが支援に繋がっていない層へのアプローチができていない。 ○早期発見・早期対応に向けたアプローチがまだまだ弱い。総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知等。 ○認知症（精神疾患含む）に対する一般市民の知識や理解が不足しており、更なる周知が必要。 ○新型コロナウイルス感染症流行後、地域の集いの場も少しずつ再開しているが、認知症の人やその家族が気軽集える場所が少ない。	
対象	認知症当事者やその家族、地域住民、地域関係者、各支援機関	
地域特性	南北に長い地域で、北部は新しいマンションが多く、中部は古くからの住宅、南部は単身者向けのマンションや文化住宅が多い。地域によって経済格差が大きい。南部と北部には地下鉄の駅、南東部にはJRの駅があるが、どちらも駅まで徒歩で移動が困難な高齢者が多く、公共交通機関の利便性が確保されていない。	
活動目標	○認知症当事者やその家族、地域住民など、誰もが気軽に参加できる認知症カフェ（集いの場）を開設する。 ○認知症カフェを通じて、認知症の人やその家族同士が情報交換するだけでなく、気軽に相談できる機会を設けることで孤立防止や介護負担の軽減を図るとともに、早期発見・早期対応を目指す。 ○認知症に対する正しい理解を深める機会を作る。	
活動内容 (具体的取組み)	○認知症カフェ開設に向けて、認知症強化型地域包括支援センター（以下「強化型包括」という）や認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）、社会福祉協議会と連携し夏頃より開設準備を始め、連合町会長・地域活動協議会・地域福祉コーディネーターの協力を得て、地域への周知を行い 令和6年9月より高齢者デイスサービスセンターいくとくⅡにて、圏域内初となる認知症カフェ（オレンジカフェいくとく2）をオープンした。月1回の開催（毎月第一土曜日13時～15時）で、定員12名の小規模なカフェ。 ○地域住民や認知症当事者、その家族等の参加者に、飲み物と軽食を提供し、テーブルにはスタッフも入り、慌たしくない落ち着いた雰囲気の中で交流が楽しめるように、談笑だけでなく、積み木ゲームや折り紙工作等も取り入れ、参加者同士楽しく過ごすことができる環境を構築している。 ○認知症や健康にまつわるミニ講座等も同時に開催し、認知症に対する正しい理解促進を行っている。 ○介護に関することや認知症に関する事など、様々な相談内容をその場で対応している。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○小規模のカフェだが、認知症の方や家族介護者、地域住民、地域福祉コーディネーターや女性部長等の地域関係者など様々な方が参加し、カフェを通じて自然な形で和やかな参加者同士の交流が生まれ、認知症への正しい理解が深まる機会になっている。また、参加者が新たな参加者を誘い、誰でも気軽に参加できる集いの場の構築ができています。 ○参加者や参加者の紹介等で、介護に関することや認知症に関することなどの相談を受ける機会が増え、早期発見・早期対応に繋がり、孤立防止や介護負担の軽減を図ることができている。 ○認知症カフェを通じて、ランチの周知にも繋がり、顔の見える関係作りができています。	
今後の課題	○認知症カフェについては、アットホームな12席の為、慌たしくない落ち着いた雰囲気、様々な方との交流を楽しめるカフェ運営を継続し、楽しく認知症への理解を深め交流できる機会を企画し、どなたがいつ来られても楽しめる場「地域の居場所」づくりを大切にしていきたい。 ○認知症への正しい理解については、地域単位で見るとまだまだ浸透していない。今後は認知症カフェ以外でも、幅広い世代の地域住民に対し、認知症への理解促進に向けたアプローチを、強化型包括やオレンジチーム、地域関係機関と連携し取組み、認知症になっても安心して住み続けられるまちづくりを目指す。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月31日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	認知症カフェの新たな立ち上げという拠点づくりを地域住民や強化型包括などの他機関と共に成功した。地域の新たな財産となっていくことを強く願う。 地区診断に基づき、不足する社会資源を構築したことは「地域性」「継続性」に該当する。連合町会長や民生委員、地域福祉コーディネーターなどの地域住民と相談し、協力を得て実現したことは「拡張性」「浸透性」に該当する。 社会福祉協議会や強化型包括などの他機関と協働して取り組んだことは「専門性」に該当する。 虐待の状態に陥る恐れがあった認知症高齢者の居場所として本人も家族もサポートできる場となるなど、目に見える成果も得られており、今後も継続した居場所として機能することを期待する。

課題対応取組み報告書

名称	住之江区加賀屋地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	・地域関係者との関係構築。あったかネット推進員と協力し地縁団体、関係者と各地域の困りごとなど共有できる場を作り関係強化に取り組む	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・気になる高齢者がいても、地域住民自らが声をかけづらかったり、関係性がないことで躊躇し、時間が経過してしまい重篤化していることもあった。 ・初期段階での相談や、早期の発見、早期の介入の重要性を再考させられた。	
対象	・地域関係者 (町会、民生委員、あったかネット推進員、見守り相談室等)、地域住民、自治会など	
地域特性	・高層マンションや公営住宅、商業地域と工場地域があり、公営住宅の高齢化、近隣とのかかわりの希薄化、工場地域の人口減少など、地域によって違いがある。また、町会からの脱会地域が増えている。	
活動目標	・気軽に相談できる場所の認知度を高める。 ・地域関係者と定期的な会議の開催を継続し、情報収集、課題の整理や、解決策などを相談する場を作る。	
活動内容 (具体的取組み)	・加賀屋地域においてはネットワーク委員会の開催を継続し幅広くメンバー構成を行う。 (町会・民生委員・更生保護女性会・病院関係者・社会福祉協議会・見守り相談室・まちづくり協力隊・地域住民・あったかネット推進員・地域包括支援センター (以下「包括」という)・総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という)) 各部門、地域の活動や動きを情報共有し、困りごとに対して提案を行い具体策等協議している。 ・加賀屋東地域においては構成ができず、あったかネット推進員を主に、個別で地域住民の課題相談や地域で気になっていることの相談を受け、解決に向けて協力した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・関係者と定期的に集まることで、地域の情報収取ができ、課題を共有することができた。 ・個別の事案でも、地域との関係ができたことで速やかに連携がとれ、ケア会議への参加要請も手早くできた。 ・解決のための役割分担、地域資源へのつなぎや、住民協力も増えた。	
今後の課題	・町会から抜ける地域が増えており、主となる関係者とのつながる方法を検討する必要がある ・包括や、ブランチの認知度を高め、活動の新たな配信方法を検討する。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月18日 (木)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・こつこつやっている、深めている、継続性あり。町会未加入の地域がまとめるにいい中で、独自に地域の人達をどうつなげるか方法を考えている。

課題対応取組み報告書

名称	住之江区新北島地域総合相談窓口					
提出日	令和6	年	6	月	18	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	かなえる体操・出前相談	
地域ケア会議から 見えてきた課題	集合住宅が多く、ひとり暮らし・高齢者世帯も多く高齢化率が高い。 地域との関わりも希薄になってきており、地域からの孤立が課題となっている。	
対象	地域住民	
地域特性	新北島・平林両地域共に集合住宅が多く占めており、ひとり暮らしの高齢者や夫婦共に高齢者世帯の割合も多い。 近隣とのつながりが希薄になっていたり、閉じこもりがちの高齢者が増え、社会参加の機会も少なくなっている。	
活動目標	・理学療法士による体操教室の実施。 ・「気軽に相談できる身近な相談窓口」の周知活動、地域の担当として顔の見える関係づくり。	
活動内容 (具体的取組み)	<新北島地域> 日時：毎月第2火曜日 14:00～15:00 場所：市営新北島住宅第一集会所 内容：訪問看護ステーションの理学療法士による体操教室 <平林地域> 日時：毎月第4火曜日 14:00～15:30 場所：UR南港前団地集会所 内容：訪問看護ステーションの理学療法士による体操教室および体操教室後に出前相談を実施	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・かなえる体操は体力づくりや生きがいづくりの場となっており、毎月賑やかに開催できている。平林地域においてはチラシを事前に配布して周知したことにより参加者が増加した。 ・平林地域の出前相談でも介護相談があり、介護保険の新規申請につながった。	
今後の課題	新規で相談を受けた方への声掛けを行ったり、事前にチラシを配布するなどして参加者を増やす。 また、年に数回程度体操と別のものを組み合わせて実施し、かなえる体操や出前相談を周知していきたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6 年 7月 18日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	来なくなる人がいても、声掛けを継続して参加人数を増やすことができています。	

課題対応取組み報告書

名称	東住吉区矢田東地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	19日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	早期相談につながるためのネットワーク作り	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①認知症を伴う生活課題 (道迷い、金銭管理) ②同居家族 (子) に発達障害の疑いなどあり、高齢・障がいの分野を越えての連携が必要 ③セルフネグレクト	
対象	地域関係者 (地域福祉サポーター、町会関係者、民生委員など)、ケアマネジャー	
地域特性	・矢田東：矢田圏域の中では町会加入率が一番高い地域ではあるが、年々減少傾向にある。地域の見守りは友愛訪問を町会女性部中心に行っておられるが、担い手も減少しており継続が難しくなっている町会も出てきている。 ・北：地域のほぼ中心に位置する会館には、日中地域の役員が常駐されていることが多く、何かあれば素早く対応されている。会館で行われている行事への参加は、立地的に比較的行きやすいこともあり、高齢の参加者も多い。	
活動目標	支援困難となる前に早期相談につながるよう、地域の気づきの声を積極的に届けてもらうため、地域との関係を強化していく。 また「気づきのポイント」については、地域関係者と話し合いを重ね発展させていき、地域で行われている見守り活動に生かしてもらえるようにする。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域福祉サポーターと協働し実態把握のための戸別訪問 コロナ後、地域の集い場に参加されなくなった人の現状を把握するために、自宅訪問を地域福祉サポーターと一緒にこなう。 ・市営団地班長会議参加・介護予防教室の自治会との共催 毎月開催される自治会班長会議に参加し、周知活動行くと共に、地域の気づきを届けてもらえるよう案内している。団地での介護予防教室では参加者からの相談を受けるだけでなく、団地内での気になる人の話を聞き相談対応につなげている。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・戸別訪問することで訪問者宅の状況を把握することができただけでなく、訪問するにあたり地域関係者からも広く情報収集を行なうことで、地域の見守り状況を確認することもできた。また活動を通じて地域関係者と話すことで、地域の気づきを届けてもらうことの重要性を改めて伝える契機となった。 ・市営団地では高齢化が進み、全体の3分の1以上がひとり暮らし高齢者世帯となっている。その内、サービスにつながっている方は3分の1程度で、見守りが必要な人も増えてきているため、団地役員、住民の方と連携し情報共有しながら、必要に応じて訪問対応を行った。	
今後の課題	地域役員、つながりのある地域住民の方々から相談窓口の案内をしてもらい、新規相談を受けるケースは増加してきているが、総合相談窓口 (ランチ) の知名度が上がっているとはいえ難しい部分もあるため、更なる周知が必要と考える。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6 年 7 月 22 日 (月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域へ足しげく通い、訪問を行うこと等顔の見える関係づくりができています。 地域の会議や行事に参加することで地域の関係機関とも情報収集を行うことができています。

課題対応取組み報告書

名称	東住吉区白鷺地域総合相談窓口					
提出日	令和6	年	6	月	20	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域支援機関との協働の中で「日常生活の困りごと」に注視し支援にあたる。 要支援・介護の「はざま」で生活されている方々への身近な相談窓口として活動していく。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし（昼間単身含む）や、高齢化に伴う筋力の低下など廃用症候群の主症状に該当する方々に、地域の集いの機会を案内し、介護・フレイル予防の視点で運動の機会の場を増やす。	
対象	白鷺地域の高齢者（ひとり暮らし・昼間単身）	
地域特性	今川地域：ボランティア活動、見守り訪問が活発で地域の福祉活動の歴史も長い、町会に未加入のひとり暮らし高齢者など地域との繋がりが希薄な方も生活されている。 育和地域：ボランティア、見守り活動は活発であるも、各町会単体での特色が強く、横の繋がりが浅いことが課題。 今川地域同様に、町会に未加入のひとり暮らし高齢者も多く生活されている。	
活動目標	地域の食事サービス、健康体操や創作、レクリエーションといった活動に参加し、総合相談窓口の周知を行い早期発見に努め、相談に繋げる。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域包括支援センター（以下「包括」という）、地域福祉サポーター、見守り相談室との情報共有会議を開催、個別ケースの共有、支援方針について継続的に検討を実施した。 ・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）職員の変更に伴い、まずは包括等の関係機関、既存ケースの訪問を主軸に動いた。 ・東住吉北包括と共催により、育和地域役員宅（17名）、郵便局、薬局、コンビニ、不動産、個人商店、飲食店（計81件）への挨拶、見守り・協力依頼の訪問を実施。 ・東住吉区包括と共催により、白鷺ランチと同法人の特養において地域行事（スマホ教室）を開催。 ※昨年度は今川地域のための対象となった	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・定期的情報共有会議、地域行事の参加を通して定期的に地域福祉サポーターと情報交換をすることで、ひとり暮らし高齢者等の実態把握に繋がった。 ・地域の郵便局より見守りが必要と思われる方の相談、訪問に繋がった。 ・白鷺ランチと同法人の特養くれないにて地域行事を開催することで、集いの場の拡充、地域のニーズに特化した催事の検証に繋がった。	
今後の課題	・認知症や高齢化に伴う筋力の低下といった廃用症候群の主症状に該当する方々を対象に、包括と協働のうえ、介護相談会や認知症、フレイル予防を視点とした取り組みを強化していく。 ・既存のケースと併行した、新規の相談ケースの獲得にも注力し、ランチの認知度を更に高めていく。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6 年 7 月 22 日 (月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域の行事に参加することで、地域福祉サポーターとの情報交換し、高齢者の実態把握に努めており、相談につながったケースもあった。 今後も包括と連携し、ランチの周知に努めていきたい。

課題対応取組み報告書

名称	東住吉区矢田西地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	7	月	3 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☒ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域高齢者との顔の見える関係性の構築に向けて	
地域ケア会議から 見えてきた課題	A DLの低下、家族や親族からの支援が困難な状況、苦しい経済的状況などが複合的に重なった相談事例が少なくない。 また、制度のほか社会資源の利用に向けて意思決定支援の難しさの認められる事例も少なからずある。 解決への難しさを緩和するには、早い時期から何らかの関わりを得られることが望ましい。	
対象	矢田西地域の老々世帯、高齢ひとり暮らし世帯	
地域特性	近年、住いの老朽化と住人の高齢化が並行して進む状況が認められる。 住人を失った老朽建物が取り壊され更地となり、その地に現代的な新しい家屋が建てられ、新たなファミリーが住まわれるという状況が進んでいる。 南北に長方形の地域となっている地域は、幹線道路が東側と北側の境界になっている。コンビニはあるものの規模の大きいスーパーは少なく、買い物の不自由さが移動の大変さを伴って認められる。	
活動目標	地域の高齢者との間で顔の見える関係性を構築する。	
活動内容 (具体的取組み)	総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）周知のチラシをこれまでに関わった相談者にポスティングした。 3の倍数月の第三日曜開催のせりょう支援教室（介護予防教室）の場において、ランチ周知のためのチラシの他、老後の備えや終活などに役立つ情報提供を行っている。 地域行事の場においてもランチ周知のチラシを配布し、参加者にランチについての説明を行っている。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	6月、9月、12月に開催したせりょう支援教室（介護予防教室）に参加された地域の高齢者（延べ10名）にランチ周知のためのチラシを配布し、ランチについての説明を行い、ランチのことを知ってもらうことができた。 矢田西食事サービスの前に行っている体操の会に毎月（12回）出席し、参加されている地域の高齢者（毎回約10名）に対し、ランチ周知のためのチラシの配布とランチについて説明を行い、ランチのことを知ってもらうことができた。	
今後の課題	地域におけるランチの知名度が低いため、今後はこれまで接点のなかった新規の住民への周知に努め、早期発見・早期相談につなげていく必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6 年 7 月 22 日 (月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☐ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	地域の行事の参加し、地域の高齢者に対してランチの広報活動を行うことができていた。 まだまだランチの知名度が低いと、積極的に地域に出かける等し、周知に努めていって欲しい。

課題対応取組み報告書

名称	西成区天下茶屋地域総合相談窓口					
提出日	令和6	年	6	月	10	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	ひとり暮らし高齢者の生活課題の早期発見・対応	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし高齢者の生活課題の解決のため、生活保護ケースワーカーとの連携の重要性が増している。 また、地域包括支援センター (以下「包括」という)、総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という) がより周知活動を行い、高齢者の支援機関としての認知・理解を広げていく必要がある。	
対象	区役所のケースワーカー、地域の大家さんや自社でアパートを管理している不動産屋さん	
地域特性	古い集合住宅が取り壊され、新築の戸建やマンションに変わってきている。 民泊も多く、コロナ前と同じように訪日外国人が増えている。 下町の雰囲気が強く、スーパー等、買い物には不自由しない地域である。ひとり暮らしで生活保護を受給している高齢者が多い。	
活動目標	区役所のケースワーカーと連携を図る。 また、地域の大家さん等に相談機関としてのブランチの周知を行うことで、ひとり暮らし高齢者が直面している様々な生活課題に早期に対応する。	
活動内容 (具体的取組み)	区役所の高齢担当者が企画した「包括圏域のケースワーカー・訪問員さんと包括・ブランチ職員との意見交換会 (9月6日)」を通じて、あらためてケースワーカーさんにブランチの役割について理解を求めた。 ケースワーカーから包括に相談があったケースについて、ブランチも協働することで、ケースワーカーさんとの顔の見える関係づくりに努めた。また、地域の大家さんや不動産屋さんにもブランチの周知活動を行った	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	区役所のケースワーカーからの相談を支援に繋げることができ、早期に生活課題を解決することができた。 年度の始めに、ブランチが担当している地域のケースワーカーや訪問員さんの退職や異動はあったが、様々な機会を通じて相談機関としてのブランチの役割を理解していただけたと思う。	
今後の課題	地域の大家さんや不動産屋さんへのアプローチは十分ではなかった。 今後も、地域の方々に高齢者の支援を行う総合相談窓口としての役割を理解してもらえるよう周知活動を行ってきたい。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ひとり暮らし高齢者は、生活保護を受給していることが多く、包括圏域のケースワーカーから、包括に相談があったケースについても、積極的に協働することで顔の見える関係を築いており、今後も関係機関との繋がりを期待している。

課題対応取組み報告書

名称	西成区山王地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	11 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	続～地域住民が主体的に参加できる活動を通じて総合相談窓口の周知を図る～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1 ひとり暮らし高齢者の支援では、複数の課題があり支援が長期化する。認知症の早期発見ができて、介護サービスにつながらず症状が悪化してからの介入となり地域での支援が困難になる事が懸念される。 2 依存症、生活困窮、不適切な金銭管理があり、介護サービスを利用した安定的な地域生活に移行するまで粘り強い支援と地域の協力が求められている。	
対象	地域関係者、地域住民	
地域特性	昔ながらの建物・風景や長年居住されている住民同士の近所付き合いも残っている。 その一方で生活保護受給のひとり暮らし高齢者世帯では、町会に入らず、身寄りがなく、孤立し、意欲低下と健康状態の悪化という悪循環がみられ、孤独死もある。	
活動目標	山王地域総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）が、気軽に相談できる身近な窓口として「地域に根ざした居場所の一端を担う拠点」であること。	
活動内容 (具体的取組み)	ポストコロナの中、地域活動が徐々に動いている。ランチとしても地域活性化のため積極的に企画展開した。 ①「東部包括フリースクール」を活動の柱として位置づけてきた。 ②居場所づくりとしての「よりあい」には歌、手芸、芝居など多様なニーズに対応すべく6回開催した。 ③山王ポッチャクラブは百歳体操の同日開催で定着してきた。ポッチャ大会にも参加が広がった。 ④みどりカフェを月1回開催。地域住民ボランティアによる「みどり苑地域清掃」の後、将棋、麻雀を用意し喫茶も実施した。 ⑤山王ランチ「みんなの足湯ひろば」を休止し、ふれあい喫茶を拡大。ボランティア参加が増えた。焼き菓子を提供し交流の場を拡大した。 ⑥山王・飛田の各地域関係者へ山王、飛田各ふれあい喫茶内で相談窓口の設置が定着。地域関係者が専用コーナーを設置していただいた。 ⑦外国人との共生において良好な関係性づくりのため、日越支援会と地域の高齢者との交流の場を持った。 ⑧車椅子体験会～街歩き編～は前年度の取り組みの発展型としてスタンプラリー形式の街歩きを実施した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①山王地域以外での活動の場がフリースクールを通して少しずつ拡大した。とりわけポッチャ大会や体力測定への参加が広がった。支援者間の連携も進み共同して会の活性化を図ることが出来た。 ②手作り、うたごえ、お芝居など講師や演者も運営する側もボランティア参加による開催が出来てきた。多様なニーズに応え、のべ116名の参加を得た。 ③月2回の百歳体操と山王ポッチャクラブが定着し、平均18名の参加を得た。 ④地域清掃には認知症状のある人の参加も得て、他者交流のきっかけとなり居場所の一つとして定着した。清掃の後の「将棋の日」にボランティアの参加を得た。 ⑤「ふれあい喫茶」は毎月1・2回開催。焼き菓子提供は好評を得て、のべ159名の参加を得た。 ⑥山王・飛田ふれあい喫茶の相談窓口の設置から地域の取り組みの周知、来客との交流ができ顔の見える関係性を形成した。 ⑦関西大阪芸術祭企画としてベトナム人NPO団体と地域の高齢者のワークショップと1日レストランを開催し50名の参加を得た。高齢者からもベトナム人参加者からも「楽しかった」と相互の活動を評価し合うことが出来た。 ⑧車椅子体験会には山王こどもセンター、地域住民の参加を得て、スタンプラリー形式で商店、銭湯などの協力を得て、地域住民、高齢者と子供の交流から障がい理解と町の環境の見直しにつながった。	

今後の課題	ふれあい喫茶や居場所づくりを拡大してきた。 みどりカフェは月 1 回か居場所拡大と支援者参加も呼びかけ活性化に繋げていきたい。 また、カラオケのニーズに答え集会所を利用したカラオケ倶楽部を創設し、多様な居場所づくりを進めたい。 様々な企画を支援者との関係づくりの糸口とし、地域を巻き込みながら孤立解消に向けた支援につなげていきたい。 それぞれの企画に地域住民ボランティアの参加を呼びかけて、支える側も参加する側も「楽しい」と感じられるボランティア活動の場としていきたい。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☐ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント	ふれあい喫茶は特に参加者が多く、ふれあい喫茶の相談窓口が定着し、地域の取り組みの周知や、参加者、ボランティアの交流ができ、顔の見える関係性の形成に寄与している。 地域関係者と協働し、周知を図れていることが高く評価できる。
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区成南地域総合相談窓口				
提出日	令和 6	年	6	月	20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域の特徴を生かした介護予防	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①コロナ後、下肢筋力が低下し、歩行が不安定な地域高齢者が増加。 ②コロナ後、地域高齢者の表情が乏しくなり、住民同士の関係性が希薄になった。 ③コロナ後も、地域との交流を制限する高齢者が一定の割合で存在。	
対象	地域の高齢者	
地域特性	①子供の頃から結婚してから等、長く地域で暮らしている高齢者が多い。 ②お祭りなど地域活動がまだ現存している。 ③長く商店街で商売をしてきた高齢者が多い。 ④地方からやってきた生活保護受給しているひとり暮らし男性も多い。	
活動目標	健康教室を開催し、地域住民同士交流を図りながら、下肢筋力及び身体機能の維持と改善に取り組む	
活動内容 (具体的取組み)	【百歳体操 & 健康教室】 日時 月曜日 13:00～14:30 グループ分けによる月1回から2回の参加 (毎週参加者もあり) 場所 社会福祉法人 慈福会 めぐみ3階会議室 内容 百歳体操 健康についての講義 リハビリ体操・脳トレ体操 対象 千本地域住民及び周辺地域住民で65歳以上の高齢者 スタッフ ボランティア (地域の医療介護職) 慈福会職員 総合相談窓口 (ランチ) 職員 目的 ①地域住民に外出する機会・運動する機会・交流の場の提供。 ②ボランティア (医療介護職) による健康教室を開催し、介護予防の知識を紹介。 ③リハビリ体操・脳トレ体操を紹介し、自宅での継続を図る。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	【参加人数】 ①コロナ前は25人の参加があったが、コロナ後は12人に減少。 ②地域での周知活動と地域住民のネットワークにより14人の新参加。コロナ前の参加人数に改善。 【地域の理学療法士による評価】 ①歩行が不安定であった3人の高齢者に下肢筋力の改善が見られた。 ②レクリエーションを通して、地域住民の交流が回復。住民の表情が豊かになり、笑顔が多々見られるようになった。	
今後の課題	【地域住民の意向】 ・地域住民の多くは、介護保険サービスを使わないで住み慣れた地域で生活を継続することが希望。 【ボランティアの理学療法士の指導】 ・ボランティアの方が健康教室の講師を継続できるようにするにはどうしたらよいか。 【地域への介護予防の周知活動】 ・どのように地域住民を巻き込んで、高齢者の介護予防に取り組んでいくのか。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント	百歳体操や健康教室を開催し、地域住民同士の交流も図りながら、介護予防で大切な下肢筋力や身体機能の維持に努めている。 地域の理学療法士も参加し、筋力改善の効果を評価しており、引き続き地域での介護予防活動に期待している。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		

課題対応取組み報告書

名称	西成区梅南・橘地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	「身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり」	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らしの高齢者が多い。特に男性で、地域とのつながりが希薄な人が多い。 ・地域とのつながりが希薄である事から日常生活に課題を抱えていても気づかれず、状態が悪化してから介入するケースが多い。 ・8050問題や老々介護など世帯で複合する課題を有するケースもあり、様々な方向からのアプローチが必要である。 ・新型コロナウィルス感染症により自粛生活が長期化したため、地域でのつながりの場も長期に停滞した。結果としてコロナ禍以前はつながり合っていた地域住民同士の関係も希薄となり、孤立化やフレイル状態に陥るなど地域全体として不活発な状態となっていた。	
対象	・圏域内地域住民	
地域特性	・昔から住まう住民が多い一方、新しく移られてきた住民も多い。 ・地域関係者の高齢化が課題である上に、町会の加入率も低下しており次世代へのバトンタッチが難しくなっている。 ・高齢化率及びひとり暮らし高齢者率が高く、一度閉じこもってしまうとその後社会との接点を持つ事が難しくなる。	
活動目標	・地域のコミュニティから疎遠となっている男性の居場所づくり。 ・地域住民が気軽に集える居場所の継続 発展を通じ、地域関係者との連携を強化して行く。 ・住民同士が見守り、支え合う地域づくりへの支援。	
活動内容 (具体的取組み)	○ 梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操 ・梅南地域での百歳体操は「おとこまえ」「いきいき」と2部制で、毎週水曜日午前に開催。 ・「おとこまえ百歳体操」は参加者の入れ替わりもありながらも、開催3年を迎える事ができた。参加者が自分の友人を誘ったり、ケアマネジャーやケースワーカーからの紹介等で参加に繋がり、介護予防のきっかけとなっている。 ・「いきいき百歳体操」は地域住民が自由に参加できる集いの場であり、毎回30人近くが参加されている。 ・6月より各々月1回ポッチャを行い、楽しみの中で体を動かす取り組みも行っている。また、「おとこまえ」「いきいき」合同での取り組みとして、地域のボランティアさんの演芸や、西成警察・消防署よりの防犯・防火の啓発活動も行った。 ○ 松之宮地域での「スマイル」「気配りさんサミット」「百歳体操」 ・「スマイル」は自由な居場所として松之宮老人憩の家にて、毎週水曜日午後開催。開催にあたりネットワーク委員と地域包括支援センター（以下「包括」という）、総合相談窓口（プランチ）、区社協体制整備が協働。ゆったりとした時間と合わせて、地域で活動されるボランティアのアトラクションや健康講座、ポッチャなど多彩な取り組みを行ってきた。 ・「気配りさんサミット」はスマイルの場を借りて、北西部包括が取り組んでいる地域でのゆるい見守り活動「気配りさん」の意見交換会です。令和5年度については認知症初期集中支援チーム・生活支援コーディネーターとも協働し、認知症初期集中支援事業と生活支援体制整備事業の事業説明等の取り組みを行った。 ・また「気配りさんサミット」から始まった松之宮地域防災訓練を、今年度は単独事業として取り組み、11月の防災訓練に向け入念な打ち合わせを重ねた。 ・「松之宮地域百歳体操」は地域ネットワーク委員とプランチ、包括、生活支援コーディネーターが協働し毎週金曜日午後開催。実演で体操を実施し、本来の運動に少しずつ運動メニューを加えた形になっており、百歳体操終了後に上半身と下半身の運動も各週ごとに行ってる。	

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操 ・どちらの参加者からも「運動する習慣がついて、毎日楽しく過ごす事が出来る様になった。」「ポッチャも楽しみになっています。」等の声が寄せられている。また、男性の参加者には、「話をする相手が出来たので、水曜日が待ち遠しい。」と喜ばれている方もいる。また町会役員も何人が参加されており、体操の場がちょっとした意見交換の場ともなり、「地域活動の活性化に繋がっている」との感想も寄せられてる。 ・はぎのさと別館での取り組みが地域に浸透すると共に、ランチの周知も進んできており、結果として令和5年度も会館への来所での相談件数増に繋がっている。 ○松之宮地域での「スマイル」「気配りさんサミット」「百歳体操」 ・「スマイル」では参加者の近況報告などのおしゃべりタイムに加えて、多彩な取り組みを行う事により「ここに来たら楽しいです。」等の声を寄せられています。またデイサービス等に行く程ではないが、少し閉じこもりがちになっている人への参加呼びかけの場ともなっている。 ・「気配りさんサミット」今年度も地域住民同士が、見守り、気に掛けあって暮らすきっかけづくりに取り組みを実施。昨年度サミットの一環として行われた松之宮地域防災訓練は今年度は単独の事業となり、災害時に自助及び共助の仕組みづくりへと発展した。 ・「百歳体操」では筋力運動に加えて、転倒予防についてのプログラムも実施。参加者より「以前より買い物に行く事が楽にできるようになった」「寝たきりにならない様に百歳体操は続けます」等の声をたくさん寄せられた。 ○「身近な集いの場の発展」に向けランチも協働して行く中で、令和5年度においても総合相談窓口の役割が浸透。地域関係者及び、そこで住まう住民ひとりひとりと顔の見える関係づくりが行えた。
今後の課題	○地域では高齢化が顕著であり、地域活動の場でも担い手の高齢化に拍車がかかっている。 令和5年度においてはポッチャを取り入れた世代間交流等も始まりを見せた。 ランチとしても課題解決に向けた協働を積極的に取り組んで行く。
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	おとこまえ百歳体操は、男性の身近な集いの場となっており、楽しみにしている参加者も多い。 百歳体操は、町会役員も参加しており、気軽に意見が交換できる場ともなっており、身近な集いの場の発展に向け、今後も期待している。

課題対応取組み報告書

名称	西成区南津守地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	高齢化が進む地域への支援体制の構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	前年度のケア会議以降、地域の関係者の方からの相談は増加したが、症状が進行した状態で相談機関に繋がる事が多い。早期発見・対応が出来るような仕組みづくりが必要。	
対象	地域住民	
地域特性	南津守地域は南北に長く、工場跡地にファミリー向けの建売住宅が増えた事で、年少人口の増加も見られる。ただ北部・中央部に市営住宅、南部にはワンルームマンションが多く、そこでの居住者はひとり暮らしの高齢者や、高齢者世帯の転入が多く、地域との交流が希薄で孤立化が目立つ。	
活動目標	いつでも、誰でも何でも言える関係の構築。	
活動内容 (具体的取組み)	自治会役員、区役所高齢福祉、見守り支援室、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター（以下「包括」という）と早期発見・対応するための支援体制についてケア会議を開催。 現在、自治会役員として困っている事を聞かせてもらい、情報がきちんと回らない事や、集会場が活用されていない事が分かる。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	今後、自治会の役員会議へ参加させてもらい、情報共有していく事、また集会場を活用させてもらい、包括と共同で出張相談会を開催させてもらう事となる。	
今後の課題	今回は一地域の自治会でのケア会議だったので、今後は他地域でも同様にケア会議を開催していく事が必要と思われる。それぞれの地域単位での課題を浮き彫りにしていく必要がある。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	症状が進行した状態で相談に繋がる事が多い中、自治会の役員会議へ参加し、困りごとを把握している。集会場の活用についても検討し、包括と共同し出張相談会を開催する等早期発見、対応できる仕組みづくりは高く評価できる。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区あいりん地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	ひとり暮らし高齢者の居場所づくり、社会参加支援	
地域ケア会議から 見えてきた課題	あいりん地域は、ひとり暮らし高齢者が多く、地域とのつながりや親族関係が希薄であり、社会参加への意欲が少ない。 毎日の居場所も無く、アルコールやギャンブルに依存する人も多く、依存することで金銭管理が出来なくなっている人も多くいる。	
対象	あいりん地域高齢者	
地域特性	ひとり暮らし男性高齢者の生活保護受給者や低年金受給者が多い。 その住まいは簡易宿泊所転用型が多く、管理が行き届かない所も多く、住環境が整っていない。 地域とのつながりや人間関係は希薄である。	
活動目標	ラジオ体操や百歳体操、ポッチャ等社会参加への意欲を引き出せるような行事を市民館と企画、共催し、居場所づくり、社会参加への意欲を引き出す。	
活動内容 (具体的取組み)	毎週水曜日午後4時からラジオ体操を実施し、平均12～13人の参加。 毎週木曜日午後3時から百歳体操を実施し、平均10人の参加。 毎月2回ポッチャを実施し、平均14～15人の参加。 それ以外にも、不定期で講座を開催し、食の健康講座、防災講座、リハビリテーション講座、ほっこり運動会等、様々な分野で地域の方の関心を引くものと考えて開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1年間のラジオ体操(延べ参加人数は583人)、百歳体操(延べ参加人数498人)、ポッチャ(延べ参加人数261人)、定期開催の映画上映会、不定期開催の健康講座等が居場所づくりとして、普段の体操等には参加しない方も来館されている。	
今後の課題	ひとり暮らし男性高齢者の社会参加への意欲を引き出すことや、アルコールやギャンブルに依存せざるを得ない状況にいる人たちへの支援が難しく、アルコールやギャンブルに依存するがために金銭管理が出来なくなり、第三者に管理されるようになっている人も多く、権利擁護支援も課題となってきている。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日(月)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ひとり暮らし高齢者の多いあいりん地域で、ラジオ体操、百歳体操、ポッチャや、様々な分野で地域住民の関心の引くものを意識して活動しており、居場所づくりや社会参加を促進していることが高く評価できる。	